

## 令和7年度第5回 引佐北部小中学校運営協議会

進行：教頭

- 1 会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 開催要件確認
- 4 議長選出 議長（ ）※委員の中から互選
- 5 前回会議録の確認
- 6 協議：議長
  - (1) 学校関係者評価（学校評価・いじめ問題への取組） 教務：生徒指導主事
  - (2) 学校運営協議会自己評価 教頭
  - (3) 令和8年度学校運営の基本方針について 校長
  - (4) その他
- 7 連絡
  - (1) 休日の部活動の地域移行について 教頭
  - (2) 第3期委員について（口頭） 教頭
  - (3) 令和8年度学校運営協議会年間計画について 教頭
  - (4) その他

## 令和7年度 学校運営協議会年間計画

※具体的な日にちは、第3期委員の都合を聞いて、再度、検討予定

※回数について、5回のままで行くか？4回に減らすか？(～R6→6回、R7→5回)

第1回 5月8日(木)【6名参加】 R8年度→5月7日(木)？

- 学校運営基本方針について
- 引佐北部小中学校いじめ防止基本方針について
- 引佐北部小中学校年間計画について
- 学校運営協議会年間計画について
- 夢育やらまいか推進事業CS加算分について

第2回 6月25日(水)→7月9日(水)【4名参加】 R8年度→6月25日(木)？

- 学校評価アンケートについて
- 児童・生徒との協議について
- 今後の部活動について

第3回 9月18日(木)【7名参加】 R8年度→9月8日(火)？ ※まるごと会議

- 児童生徒、保護者、職員との協議
- 1学期の教育活動の振り返りについて
- 令和8年度9月以降の休日の部活動の地域移行について →次回以降
- ※ 第3期委員について →連絡事項にて

第4回 1月23日(金)【6名参加】 R8年度→1月21日(木)？

- 学校関係者評価
- 夢育やらまいか推進事業CS加算分
- ※ 第3期委員について

第5回 2月26日(木) R8年度→2月18日(木)？

- 学校関係者評価(学校評価・いじめ問題への取組)
- 学校運営協議会自己評価
- 令和8年度学校運営の基本方針について
- 令和8年度学校運営協議会年間計画について

令和7年度 第4回 引佐北部小中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年 1月23日（金） 13時30分から15時35分まで
- 2 開催場所 引佐北部小中学校 校長室
- 3 出席委員 鈴木 知成、山本 培代、廣瀬 稔也、池田 信子、五十川 亜純、萬立 芳朗
- 4 欠席委員 松田 好道
- 5 学 校 畠山 徹（校長）、高柳 もと子（教頭）、中道 茂美（教務主任）、野末 敏宏（教務主任）、  
田力 里枝（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 田力 里枝
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、萬立委員が推挙され、全員異議無くこれを承認した。

9 協議事項

- |                          |      |
|--------------------------|------|
| (1) 学校関係者評価について          | 教務主任 |
| (2) 夢育やらまいか推進事業CS加算分について | 教頭   |
| (3) 第3期委員について            | 教頭   |

10 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

委員が配付資料に目を通してから熟議に入った。

(1) 学校関係者評価について

- ・「自主的に学習できている」の設問に対して、保護者、教員が「あまりそう思わない」という回答が多いが、子供は「できている」と思っているようだ。それはなぜか。（萬立委員）  
→昨年度から宿題を減らして自主学習をするよう指導している。大人は子供たちにもっと自ら進んで学んでほしいと願うが、子供自身は、宿題も出ないし、授業で学んでいるから大丈夫と思っているのではないか。自主学習の意味や意義を丁寧に伝えていく。（教頭）
- ・主体性の欠如や基礎学力の低下は本校だけなのか、全国的な傾向か。（廣瀬委員）  
→コロナ禍以降、自分で勉強を進める力が弱いことが明らかになった。本校の子供たちは素直でいい子供が多いが、自分で考える力をもっと身に付けていく必要がある。教師が伴走者になるように8年度の重点課題としていくつもりだ。（校長）
- ・「完走大会の廃止」の要望がある点など、課題の「粘り強く取り組むこと」が子供に伝わっていない現われのようだ。ぜひそこをがんばらせたい。（廣瀬委員）
- ・小学生のうちのはのんびり過ごすも、中学生になるとそれなりに自覚が出てきて、勉強の必要性を感じる子供が多いのではないか。あまり早いうちから現実的なことばかり言う必要はないのではないか。（鈴木委員）  
→どの子もそうやってしっかりと考えられるようになるとは限らない。確かに、現実的なことばかり言っても、ついていけない子も出てくる。どうしたらそのような主体的な学習姿勢の中学生につながるか、考えていきたい。（教頭）
- ・学校行事が多いのは本校の特徴か。（萬立委員）

- 小中一貫校の特徴であるが、今後バランスをどうとるかを考えたい。(校長)
- ・行事の経験を積んで子供が育っていくと思う。どうしたら自然に自分から勉強に取り組むようになるのか知りたい。(池田委員)
- ・子供たちが挨拶できないというのは本当なのか？そうだとしたらどの子も、普通に挨拶ができるようになるとよい。また廊下を走る子が多いというのは本当か。(山本委員)
- 特に低学年で走る子は多い。落ち着いて生活できるよう、繰り返し言っていく。挨拶も同様に、まずは大人がしていく。(教務)
- ・子供たちに目標や夢を持っているのか、聞いてみたい。漠然とした夢はあっても具体的にどうしたらいいのかはわかっていないのではないか。(五十川委員)
- ・基礎学習の定着には、家庭の協力が必要。(廣瀬委員)
- ・基礎学力の定着に課題があるというのは、テストの結果からわかるのか。(萬立委員)
- テストもそうだが共に過ごしている教員が肌で感じている。(校長)
- 小規模校で競争意識が低い。発表の際に多様な意見が出にくい。(教務)
- 挑戦をし続けるところが弱いように見受けられる。勉強もしつけもあいさつも、学校と家庭で伸ばしていくことを共有したい。(校長)
- ・集団生活の中で、発言することが得意な子もいれば苦手な子もいる。できる子に多くを任せてしまうのではなく、他の子にも活躍するチャンスを持たせることを大切にしてほしい。(五十川委員)
- 今後に生かしていく。(教頭)
- ・複式の授業は、慣れている先生にやっていただけると安心する。(五十川委員)
- 複式は避けられない。どの教員も複式学級を持つ可能性がある。そのために授業の進め方シートを作成して使っている。子供たちも学習リーダーを担うことに慣れてきた。(校長)

(2) 夢育やらまいか推進事業CS加算分について

- ・異年齢の児童生徒の集団活動を目的とした宿泊体験の際の交通費として使ったことを教頭が委員に報告した。

(3) 第3期委員について

- ・任期終了の委員が5名いるため、新しい委員の候補について、教頭から委員に情報提供を求めたところ、7名ほど名前が挙がった。最終的には、学校長が判断して委員会へ推薦していくことを伝えた。

## 11 連絡

(1) 令和8年度学校運営の基本方針について

- ・「こころゆたかに」をベースにして、「たくましく生きる」ことに重点を置いた基本方針にした。目指す教師像についても考案する。(校長)

(2) 第5回開催日時について

- ・教頭から、次回会議は、令和8年2月26日(木)13時30分に開催する旨の連絡があった。
- ・次回の議長は松田委員が選出された。

# 令和7年度 引佐北部小中学校 学校評価

## 【学校の理念】 みんなでつくる「みさと」の学校

## 【学校教育目標】 心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成

### 1. 令和7年度の取り組み

#### 心豊かに生きる児童・生徒

○自分を大切にできる ○他者を認め、協働できる

#### 【学校運営の重点】

- ① 児童・生徒の主体性の育成（各教科授業・特別活動・部活動等すべての教育活動を通して主体性を育む工夫、「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上）
- ② 「引北らしさ」を生かした教育活動の充実（探究的な学習の推進、生徒主体による「模擬会社さきりやま」の運営、異年齢集団との意味のある交流、日常の授業におけるコミュニケーション活動の充実）
- ③ 授業における個別最適な学び、協働的な学びの推進（主体的な学習・継続的な探究学習・コミュニケーションを大切にしながら進める自主学習、効果的なICT活用・タブレット端末の活用率向上と協働学習の推進、複式学級における運営と指導向上のための研修推進）
- ④ 安心できる居場所づくり（児童生徒支援における共通理解・個に応じた支援の充実、就学支援委員会・発達支援教室の実施、振り返りアンケート・いじめアンケートの実施と丁寧な確認と対応、積極的ないじめ認知・組織的かつ早期の対応（いじめ対策委員会））
- ⑤ 地域に開かれた教育課程の推進（学校運営協議会や保護者との信頼、協働・地域での学び、地域の方による学習支援の充実）

### 2. 自己評価

#### ○ 児童生徒の評価

項目	内容	達成率
1	それぞれの人の思いや考えを認め合うことができた。	94%
2	夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができた。	92%
3	自ら目標を立て、計画的に取り組むことができた。	89%
4	夢や目標の実現に向けて、継続し続けることができた。	89%
5	学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができた。	77%
6	振り返り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりしている。	86%
7	自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができた。	83%
8	様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができた。	89%
9	先生たちは、自分のことをわかってくれている。	92%
10	「いじめ」を許さず、今ながら安心して過ごせるように考えて行動できた。	93%
11	悩みがあるときはアツケアトや教習相談などで、先生に相談しやすく安心できた。	89%
12	地域の方から学んだら、共に活動したりして、温かい関係を築いている。	92%

#### ○ 保護者の評価

項目	内容	達成率
1	お子さんは、周りの人の思いや考えを認め合うことができています。	98%
2	夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができています。	81%
3	お子さんは、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができています。	81%
4	お子さんは、夢や目標の実現に向けて、継続し続けることができています。	77%
5	お子さんは、学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができています。	82%
6	お子さんは、振り返り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりできています。	73%
7	お子さんは、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができています。	60%
8	お子さんは、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができています。	86%
9	学校は、一人一人の子供のことを理解し、個に応じた支援を行うように努めている。	85%
10	学校は「いじめ」を生まない環境をつくり、誰もが安心できる居場所づくりに努めている。	73%
11	学校は、児童生徒が困ったときや悩みがあるとき、相談しやすく安心できた。	71%
12	学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。	100%

#### ○ 職員の評価

項目	内容	達成率
1	児童生徒は、周りの人の思いや考えを認め合うことができています。	83%
2	児童生徒は、夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができています。	66%
3	児童生徒は、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができています。	66%
4	児童生徒は、夢や目標の実現に向けて、継続し続けることができています。	66%
5-①	児童生徒は「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組めるように授業や諸活動を工夫した。	77%
5-②	児童生徒は「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができています。	50%
6	児童生徒が個別最適な学びを進められるように授業改革に取り組んだ。	80%
7-①	児童生徒が振り返りを通して、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりしている。	77%
7-②	児童生徒は、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができています。	22%
8-①	児童生徒が協働的に学びを深めるように授業改革に取り組んだ。	94%
8-②	児童生徒は、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができています。	77%
9	学校は「いじめ」を生まない環境をつくり、誰もが安心できる居場所づくりに努めている。	83%
10	学校は、一人一人の子供のことを理解し、個に応じた支援を行うように努めている。	83%
11	児童生徒が困ったときや悩みがあるとき、相談しやすく安心できた。	88%
12	学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。	94%

### 4. 今後の改善方策(1月23日現在)

- 主体性と粘り強く挑戦し続けること→自己決定と自己調整を大切にしたい教育活動を推進する。「自分たちの学校は自分たちで作る」意識の向上。
- 「引北らしさ」を生かした教育活動の充実に関し一つつきたい力と小中の接続を意識した「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」の実践。各ブロックにおける異年齢集団活動の充実と日常化。上級生が下級生に生活習慣(挨拶や規律)背中教える文化の醸成。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善→授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実。基礎学力の定着。効果的なICTの活用。複式学級における運営と指導方向向上のための研修推進。

#### ○ 学校運営協議会による学校関係者評価

- 学習面と主体性の課題  
児童生徒の「自主学習」に対し、大人は物足りなさを感じている一方、児童生徒は「できていない」と感じていると認識の差が見られる。学校は、コロナ禍以降の主体的な学習意欲の弱さを課題とし、教師が伴走者となって自ら考える力を養う方針を示した。また、基礎学力の定着には家庭の協力が不可欠であり、学校と家庭で共通の目標を持つ重要性が強調された。
- 学校生活と行事のあり方  
児童生徒からの完走大会の廃止要望などを通じて、「粘り強く取り組む姿勢」の不足が懸念されている。挨拶などの基本的生活習慣については、大人が手本となり、繰り返し指導していく方針である。また、小中一貫校特有の行事の多さについては、子供の成長に寄与する反面、今後のパランス調整が検討事項となつていく。
- 多様な児童への対応  
集団生活において、特定の子どもだけでなく全員に活躍の場を与える配慮や、複式学級における「授業の進め方シート」の活用など、指導の工夫が進められている。子供が自覚することを待つだけでなく、いかに主体的な学習姿勢へ繋げるかが今後の焦点となる。

#### ○ 本校の成果と課題

- 【成果】  
児童生徒は互いの考えを尊重し、全学年で9割以上が「いじめを許さない安心できる環境」と評価している。最大の強みである地域連携は、保護者・職員からほぼ100%の支持を得て、多様な活動が展開されている。一貫校の利点を活かした縦割り活動も評価が高く、異学年交流を通じて役割意識の向上や相互理解が進んでいる。
- 【課題】  
主体性について、「自分たちの学校をつくる」意識の低さや、困難に挑み続ける粘り強さの不足が課題である。学習・生活面では、計画立案や振り返りを行う自己調整能力の定着が課題であり、挨拶等の基本習慣の徹底も図りたい。また、縦割り活動の質的向上や一貫校の利点を活かした教育活動の更なる充実が不可欠である。

令和7年度 いじめ問題への取組総点検 結果

このアンケートは、自校のいじめ問題への取組について振り返りを行い、課題や改善策等を検討するために実施します。（質問内容は、令和5年度教職員版はままつの教育「いじめ対応の手引き」を参考にしています。）以下の質問についてお答えください。

※教職員：18名(小学校7名 中学校12名)

番号	質問内容	はい	いいえ
☆	あなたは、いじめの定義（「一定の人的関係」「心理的又は物理的な影響を与える行為」「心身の苦痛」）を正しく理解していますか。	18	0

■回答基準(以下の質問に対して、次の項目から当てはまる数字を記入してください)

4. できている 3. どちらかといえばできている 2. どちらかといえばできていない 1. できていない

■未然防止～いじめを起こさない～ ※「いじめ対応の手引き」P6-17

番号	質問内容	4	3	2	1
Q1	あなた(あなたの学校)は、「学校いじめ防止基本方針」の計画に則った未然防止の取組(いじめの防止等に関する取組)を行っていますか。	15	3	0	0
Q2	あなたは、いじめの未然防止に向けて、自分の役割を自覚して行動することができますか。	12	6	0	0

■早期発見～いじめを見逃さない～ ※「いじめ対応の手引き」P20-22

番号	質問内容	4	3	2	1
Q3	あなたは、自校のアンケートや「はまついじめアンケート」の結果をいじめの発見に有効活用していますか。	16	2	0	0
Q4	あなたは、子供との関わり・観察や個人面談をいじめの発見につなげていますか。	12	6	0	0

■対応～いじめを解決する～ ※「いじめ対応の手引き」P24-42

番号	質問内容	4	3	2	1
Q5	あなたは、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めることができますか。	15	3	0	0
Q6	あなたは、子供や保護者の気持ちに十分寄り添い、傾聴しながらじっくり話を聴いていますか。	14	4	0	0
Q7	あなたは、事実(いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ『5W1H』)を聴き取り、その事実のみ(主観は入れない)を記録に残していますか。	15	3	0	0
Q8	あなたの学校は、「校内いじめ対策委員会」でいじめの認知をし、組織的な対応ができていますか。	16	1	1	0
Q9	あなた(あなたの学校)は、いじめを受けた子供、いじめを行った子供の保護者に、いじめの事実関係や対応方針・経過をできるだけ早く、丁寧に説明していますか。	14	4	0	0
Q10	あなた(あなたの学校)は、いじめの解消に向けて、いじめを受けた子供、いじめを行った子供の気持ちを継続的に確認し、見守っていますか。	16	2	0	0

■いじめ問題への取組について課題及び見直しが必要となった点や今後に向けての改善点

いじめ対応に全職員で対応していく。いじめ等の事実があった場合、全職員で直ちに情報を共有し、組織での対応をすることができる集団を目指す。複数対応を基本とする。

・問題行動があった際の対応方法(事実確認の仕方・対応すべき教員など)や流れ、記録方法など、「報告・連絡・相談」も含めて改めて全職員で確認する。また、事実や対応の様子を、その都度、記録に残すことを徹底する。

・多様な背景への配慮が必要になっていくと思われる。関係機関との連携を強めたい。

・日ごろから保護者のみなさんと積極的にかかわり、風通しのよい関係を結んでおく。

・子供目線、保護者目線に立ってそれぞれの思いや気持ち、納得の度合いを想像し、しこりが残らないように丁寧かつ細やかに対応していく。普段から個々の子どもへの継続的で温かい声掛けを意識し、誰にとっても居心地のよい集団作りにつながるような支援を心掛ける。

・道徳の授業や特別活動を通して、協働的な姿勢と、相手とうまく折り合いをつけることができる力を育成していく。児童生徒自身がいじめ防止について考え、行動する機会を増やす。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ( )

<本年度の目標>

--

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた    イ できた    ウ あまりできなかった    エ できなかった (理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた    イ できた    ウ あまりできなかった    エ できなかった (理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った    イ 行った    ウ あまり行わなかった    エ 行わなかった (理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

--

# 令和8年度 引佐北部小中学校グランドデザイン（案）

【はままつの教育理念】「描く夢や未来の実現」

【コ ン セ プ ト】「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」

【目指すこどもの姿】

「自分らしさを大切にすることも」「他者と協働し、主体的に行動できることも」「自己調整しながら、粘り強く取り組むことも」



## 【学校の理念】 みんなでつくる「みさと」の学校

【学校教育目標】 心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成

	「心豊かに生きる」姿	「たくましく生きる」姿
高等部 ブロック	○ 自分を大切にし、他者を認め、協働できる。	○ 自己決定したことに自ら取り組み、自己調整しながら挑戦し続ける。
中等部 ブロック	○ 自分らしさを大切にし、多様な考えを受け入れながら、集団のために協力して行動できる。	○ 自ら課題を見つけて計画的に取り組み、自分のやり方を振り返りながら粘り強く解決しようとする。
初等部 ブロック	○ 自分のよさに気付き、相手を思いやりながら、みんなと仲良く活動できる。	○ 自分でめあてをもち、失敗しても諦めずに、いろいろなことに進んで挑戦する。

## 【令和8年度の学校運営の重点】

### ①児童・生徒の主体性の育成

- 「自己決定」と「自己調整」を大切にした教育活動の推進
- 「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上



### ②「引北らしさ」を生かした教育活動の充実

- 各ブロックにおける異年齢集団活動の充実と日常化
- 付けたい力とブロックの接続的な学びを意識した「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」の実践

### ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実
- 効果的なICTの活用
- 複式学級における運営と指導力向上

### 安心できる居場所づくり

- 道徳教育、特別活動、健康教育の充実
- 児童・生徒支援における共通理解、個に応じた支援の充実、教育相談体制の充実
- 就学支援委員会、発達支援教室、いじめ対策委員会の充実

### 社会に関かれた教育課程の推進

- 学校運営協議会や保護者との信頼・協働
- 地域での学び・地域の方による学習支援の充実

## 令和8年度 学校経営方針（案）

### 1 はじめに

生あることが、すでに十分すばらしいこと。そして「よりよく生きてほしいと願う」ここに教育があると考えます。

教育基本法では、教育の最大の目的を「人格の完成」としています。そのためには学習指導要領が目指す「生きる力」の育成が必要であり、第4期教育振興計画・第4次浜松市教育総合計画を受けながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等により、子供たちに持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成していきます。

### 2 学校課題

昨年度（令和7年度）の課題分析より、次のことが浮き彫りとなりました。

- |   |
|---|
| <p>① 主体性と粘り強く挑戦し続けることに関して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自ら目標を立てて学習し、計画的に学習に取り組むことに課題がある。</li><li>・粘り強く取り組んだり、失敗を恐れて挑戦したりすることができない。</li></ul> <p>② 基礎的な学習と生活習慣に関して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎学力の定着に課題がある。</li><li>・基本的な生活習慣(挨拶等)に課題がある。</li></ul> <p>③ 引北らしさを生かした教育活動の充実に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事、体験的活動が多く、児童生徒の生活に余裕がないという課題がある。</li><li>・「たくましく生きる」児童生徒を育成するための異学年集団活動が十分でない。</li></ul> |
|---|

ここから、改めて「主体性をどう育むか」を考えるとともに、この学校課題を解決し目指す子供の姿に近づけるために、重点施策を3つに絞ります。

また、この施策を支える基盤づくりとして、引き続き、子供たちにとっても教職員にとっても「心理的安全性」が高い場所を目指します。互いの存在を認め合う温かな基盤の上で心豊かに、そして予測困難な社会をたくましく生き抜く児童・生徒を育成します。

### 3 学校教育目標と目指す姿

学校教育目標：【心豊かにたくましく生きる児童・生徒】

本校が目指すのは、単に知識を持つ児童・生徒ではなく、変化の激しい社会において自らの人生を切り拓くことができる子供です。昨年度の課題である「受け身の姿勢」「失敗への恐れ」を克服し、以下の姿を目指します。

## (1) 目指す子供像

【心豊かに生きる】自分を大切にし、他者を認め協働できる児童・生徒

- ・自他の良さを認め、多様な価値観を尊重できる
- ・挨拶や礼儀など、社会生活の基礎を大切にする
- ・仲間と対話しながら課題解決に向かうことができる

【たくましく生きる】自己決定したことに自ら取り組み、自己調整しながら挑戦し続ける児童・生徒

- ・「やらされる学習」から脱却し、自ら目標を立てて計画的に学ぶ
- ・失敗を「学びのプロセス」と捉え、自己調整しながら粘り強く再挑戦できる
- ・基礎学力を定着させ、それを活用して新たな価値を創造しようとする

## (2) 目指す教師像

- ・「教える教師」から「支え、伴走する教師（ファシリテーター）」へ
- ・チーム学校として、組織的に課題解決にあたる教師
- ・業務の適正化を図り、心にゆとりを持って子供と向き合う教師

## 4 本年度の重点施策

令和7年度の課題（主体性の欠如、基礎学力・生活習慣の定着不足、引北らしさをいかけた教育活動の見直し）を解決するため、以下の3点を重点的に推進します。

- **重点施策1：主体性の育成** ～「やらされる」から「自らやり続ける」へ～
  - ・「自己決定」と「自己調整」を大切にした教育活動の推進
  - ・「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上
- **重点施策2：「引北らしさ」を生かした教育活動の充実**
  - ・各ブロックにおける異年齢集団活動の充実と日常化  
上級生が下級生に生活習慣（挨拶や規律）を背中で教える文化を醸成
  - ・つきたい力とブロックの接続的な学び意識した「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」の実践
- **重点施策3：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善**
  - ・授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実
  - ・効果的なICT活用
  - ・複式学級における運営と指導力向上

## 5 施策を支える基盤づくり

- **安心できる居場所づくり**
  - ・道徳教育、健康教育、個に応じた支援、各委員会等の充実
- **地域に開かれた教育課程の推進**
  - ・学校運営委員会、地域での学び・地域の方による学習支援等の充実